

新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について(滋賀医科大学)

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

令和2年度後期から、13教室のAV機器の改修を行い、対面授業を基本としつつも、同時にリアルタイム配信による遠隔授業も行う「ハイフレックス型授業」を確立した。教室はネットワークを介して任意の組み合わせで連携可能としたことで、収容人数を半分程度とするための2教室同時開講や学年・学科をまたがる合同講義等にも柔軟に対応できるようになった。また、講義内容は録画して、後日にオンデマンド形式でも配信し、学修機会の確保を行った。

さらに、遠隔での授業を実施するにあたり、全学向けにオンデマンド型遠隔講義のためのe-learningシステム(WebClass)の利用説明会や教室利用に関する説明会の開催(令和2年度:8回実施)、授業中のトラブルに即対応するための全授業モニタリングシステム及びサポート体制の構築に加え、受講環境の違いが学生にとって不利益とならないように、希望者全員にラップトップPC(43台)、マイク付きカメラ(15台)、タブレット(6台)とモバイルルーター(81台)を無償で貸与するなどの利用支援により、学習機会を確保した。

2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。

大学回答欄

令和2年度は、特に新型コロナウイルスの感染拡大により早急に学生のメンタルヘルスへの適切な対応を行う必要も生じたため、教育担当副学長のもとカウンセラーサポート体制検討ワーキングを設置し、精神科医や臨床心理士等の専門家の意見を参考にして学生のカウンセリング体制を整えた。令和3年2月より、医学・看護学教育センターに専属の心理カウンセラーを配置し、臨床心理士によるカウンセリングを開始した。臨床心理士によるカウンセリングは、週1回4枠(13:00~16:00)で、枠外の時間も対応する等、学生の希望に柔軟に対応しながら実施している。

新型コロナウイルス感染症拡大に起因する学生生活や修学環境の変化に伴う、経済的支援のため、生協食堂で利用できる「無料夕食券」を配付した。(無料夕食券と引き換えに、生協食堂の夕食(450円)を提供(一人あたりの配付枚数:1回目4枚・2回目2枚))

新型コロナウイルス感染症対策寄附金を募り、それにより、コロナ禍によりアルバイト収入が減少する等、経済的に厳しい状況に置かれている学生を遠隔授業補助業務等に従事するスチューデントアシスタントとして雇用した。また、附属病院における夜間PCR検査従事者として学部学生の雇用を行った。